

# 「100%の安全・安心」をいっそう追求し、信頼される高速道路へ変革していきます。



## 笹子トンネル事故を厳粛に受け止めて

2012年12月に発生した、NEXCO中日本が管理する中央自動車道・笹子トンネルの天井板落下事故により、高速道路への信頼を大きく損なうことになりました。この事故によりお亡くなりになられた方々のご冥福をあらためてお祈りいたしますとともに、今後、当社において、このような痛ましい事故を起こすことがないように、今回の事故を厳粛に受け止め、道路保全に全力を傾注し、信頼の回復に努めてまいります。

## 「100%の安全・安心」のさらなる追求

当社グループにとっての最優先課題が「お客さまの安全・安心」であることは、設立以来一貫して変わりません。「100%の安全・安心」を目指して、日々、道路保全や交通安全対策などに取り組んでいます。

日本で最初の高速自動車国道として開通した名神高速道路が2013年7月に50周年を迎える中、高速道路ネットワークにおける構造物の健全性を永続的に確保するため、2012年11月に、NEXCO東日本、NEXCO中日本とともに「高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会」を設置しました。予防保全の観点も含めた技術的見地から、高速道路の長期保全および更新のあり方について検討を進めています。

また、大規模災害への耐性を高めるため、新名神高速道路等新規建設区間や湯浅御坊道路等四車線化の早期整備を推進しています。

## 道路保全のトータルマネジメント体制を構築

当社グループが提供している道路サービスは、「お客さまが安全・安心、そして快適に高速道路をご利用していただく」ことであります。安全・安心、快適という道路サービスの品質を実現するうえで基盤になるのは道路保全業務であり、これによってサービスの品質が決まります。

そこで、点検、健全度判定から補修の計画、設計、工事までの、いわば“サービスの製造”にあたる道路保全業務を、一貫して行う体制づくりを強化するとともに、次世代が補修しやすい構造や第三者被害を防ぐフェールセーフ<sup>9</sup>対応などといった、将来の姿を思い描き、今何をすべきかを考える「未来からのフィードバック」を常に意識して保全業務に取り組んでいます。

これにより、当社グループに技術やノウハウを集積

し、予防保全技術の開発や実証などに活かしていくことができます。そして効率的・計画的な維持管理を推進していくことで、安全・安心のサービス品質向上だけでなく、ライフサイクルコスト<sup>9</sup>の抑制にもつながると考えています。

今後も「100%の安全・安心」を実現するという強い意志を持って、高品質なサービスの提供に努めていきます。

## 災害対応力と地域連携の強化

東日本大震災の教訓を踏まえ、被害想定を見直し、実効性のある対策に取り組むとともに、関係機関との連携を加速させ、災害対応力の強化を図っています。また、津波などの災害発生時に緊急避難が必要となる地域において、高速道路を避難場所として活用できるよう取り組んでいます。さらには、高速道路に対する周辺自治体などの期待に応え、防災や観光などの分野で相互に連携し、地域社会の安全・安心の向上や活性化に努めています。

2010年5月から進めてきた周辺自治体との「包括的相互協力協定」の締結は、2013年3月までに23府県4政令市に広がっています。高速道路ネットワークを活用し、地域と連携した取り組みを今後も進め、地域の発展に寄与していきます。

## ブランド戦略によるお客さま満足度の向上

多様化するお客さまのニーズに応えるため、SA・PAを「くつろぎ、楽しさ、にぎわい」を実感していただける「お客さま満足施設」への変革を推進しています。「おもてなしの心」でサービスを提供する「モテナス」、地域の特色を活かしたサービスを提供する「アドヴァンストエリア」、旅の目的地となる「パヴァリエ」という3つのブランドを展開しており、2013年4月、名神高速道路(下り線)に「パヴァリエびわ湖大津」を、2013年6月、山陽自動車道(上り線)に「パヴァリエローズマインド福山」をリニューアルオープンしました。

これからも、お客さまをおもてなしするにあたっては、「自分自身が望むサービス」を提供させていただくという想いを込めて、より多くのお客さまにご利用・お楽しみいただき、地域に愛される開かれたSA・PAづくりを進めます。

## 環境にやさしい高速道路を目指して

当社グループでは、環境活動の基本理念「環境方針」を定め、「低炭素社会<sup>9</sup>の実現」「循環型社会<sup>9</sup>の形成」「自然と共生する社会の推進」を3つの重点テーマとして、環境への取り組みを進めています。

それを具現化するものとして、2012年11月、大分自動車道(下り線)に「パヴァリエエコエリア山田」をリニューアルオープンしました。

また、高速道路建設による自然の消失を最小限に抑えるとともに、動物の移動経路の確保や河川の付け替えに伴う生物の代替生息地の整備などにより、地域の生態系の保全や多様性に配慮し、将来にわたり自然と共生できる高速道路事業を推進していきます。

## 「未来に続く信頼の道」づくりを推進

日本の大動脈として産業と社会を支え続けている名神高速道路などを多重化<sup>9</sup>するものとして、過去に経験したことがないような災害が発生した場合でも「道路サービスを間断なく提供し続ける」という基本理念のもと、新名神高速道路の建設を進めています。城陽～八幡間、高槻～神戸間は、一日でも早い開通を目指し、全力を尽くしています。また、2012年度から新規に着手した大津～城陽間、八幡～高槻間についても、2023年度の新線開通に向け、沿道地域の皆さまとの協議を開始しており、特に環境保全については、大阪府高槻市に自生する「鶺鴒(うどの)ヨシ<sup>9</sup>原」などの生育環境の保全と事業の両立に全力で取り組んでいます。

安全・安心、快適で質の高い道路空間を実現するとともに、環境への配慮や、地域の防災・活性化に貢献する新たな機能も創出し、「新名神」を「未来に続く信頼の道」として、「全ての活動が信頼へと続く」ように我々の活動すべてが国民の皆さまの信頼を得、地域にとって必要とされる組織へと続いていくよう考えています。

こうした事業遂行のすべての基盤となるのがコンプライアンス<sup>9</sup>です。重要な社会インフラである高速道路ネットワークを預かる会社として、当社グループは「NEXCO西日本グループ行動憲章」を定め、その実現に努めています。

また、当社グループは、国連グローバル・コンパクトの人権・労働・環境・腐敗防止に関わる10原則<sup>9</sup>を支持し、2009年からその活動に参加しています。

今後も、すべての事業活動において、ステークホルダー<sup>9</sup>の皆さまからの信頼を得て、地域にとって必要な組織となるよう、「お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献する企業グループを目指す」というグループ理念の実現に、全力を挙げて取り組んでいきます。

ステークホルダーの皆さまには、本レポートや当社グループの活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

西日本高速道路株式会社  
代表取締役社長

石塚由成